



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：唐澤千明 副会長：池田幸平 幹事：市川修次 公共イメージ向上委員長：杉本徳治



2019-2020 国際ロータリーのテーマ
ロータリーは世界をつなぐ
 Rotary Connects The World

2019-2020 RI会長
マーク・ダニエル・マローニー
 <アラバマ州 (米国) >



第1523回例会 令和2年1月21日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 真実を求めて 原一馬ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介 ・支援留学生 **グエン ティ テュエット ニュン** 様



■ 会長談話 唐澤千明会長



1月12日に伊那市出初式が開催されました。出初式とは日本の消防関係者により1月初旬に行われる仕事始めの行事であり、消防出初式とも呼ばれ、新春恒例行事の1つでもあります。

伊那市消防団は、「私たちが住む地域は、私たちが守る」という意志のもと、地域の仲間と共に活動しています。

消防本部を中心に、地域を管轄する3方面隊11分団と、予防啓発を主に行う消防団音楽隊により組織され、女性を含む907人の団員が在籍し、住民の安心・安全のために幅広く活躍しています。平成18年4月には1,129人いた団員数でしたが大きく団員を減らしました。

消防団の活動は、災害時には消防署と連携した消火活動、風水害や地震など大規模災害の対応をしています。また、平常時には地域の定期的な警戒巡視、災害・火災の想定訓練、ポンプ操法訓練、救護訓練、要請による行方不明者の捜索、火災予防の啓発広報活動、消防団音楽隊の各種演奏会など多くの活動をしています。

消防団員は非常勤の特別地方公務員で年間一定の報酬が支給されます。災害や訓練への出動に対して出勤手当が支給され、5年以上消防団に従事した場合には、退職報奨金が支給されることになっています。また、伊那市消防団サポート店（市内58店舗と市内温泉など6施設）での料金割引やサービスなどの特典が受けられます。

消防団員募集において、伊那市内に居住・通勤・通学する18歳以上の方で性別は問わないとし、休日や早朝・夜間に行う訓練、緊急時の災害・捜索対応などありますが、家庭や仕事を優先しての参加で構わないとしています。

地域の様々な職業・年齢の仲間同士が訓練や災害対応を通じて、連帯感と信頼で絆を深め、地域のために活躍していると、地域の防災力の維持と継承のため、皆さんの力を貸して欲しいとしています。

消防団員の勧誘は区長も関わっている地域もありますが、団員が勧誘に行った時に、親が出てきて玄関先で断わる例が多いようです。新しく団員が加入しないため辞めたくても辞められない状況があると聞いています。若者が少ない高遠・長谷の東部方面隊は40歳を越えても消防団員に所属せざるを

得ないとも聞いています。

辰野町、箕輪町では小型ポンプ操法大会を中止するに至っていますが、伊那市は継続するとしています。地域の安心・安全、機能維持と地域防災力継承のためにも若者の消防団加入を押し進めたいと思います。

■ ニコニコボックス

- ◆唐澤千明 暖冬で生活は楽ですが、ウインタースポーツのスキー・スケート場は運営が大変です。伊那西スケート場は今年は滑走できないかと思います。存続を考える時期です。
- ◆市川修次 暖冬ですがお互いに体調管理に気を付けたいと思います。
ニユンさん、今日のご来訪ありがとうございます。

■ 幹事報告 市川修次幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。



■ 委員会報告

・「財団室ニュース」1月号の内容紹介 中川博夫ロータリー財団委員長



「P1」ロータリー財団地域コーディネーター(第3地域)田村泰三さんによる「ロータリー財団の有効活用」は必読です。

『2013年にロータリー財団が未来の夢計画によって現在の体制に変更されて以来、地区財団委員会の判断と行動力が大きくなってきました。私たちにとって参加する機会が多くなったグローバル補助金と地区補助金に対する関心が、高まってきていると思います。2013年から始まった「未来の夢計画」による地区補助金事業をするようになってから、ロータリー財団が身近になりました。』

『補助金は支援を必要としている人たちに人道支援として使用されるように限定されています。地区補助金では私たちの地域社会にこのような人たちへの支援を見つけることが必要です。いつも見ているのに気づいていないことが多いようです。一人の目だけではなく、多くの人の観察が必要で、このようなことにロータリークラブでの意見交換の時間が使われることが望まれます。』。ですから、伊那中央RCは今例会も含め、全員協議会で皆さんから要望・意見をお聞きしているわけです。

『ハンディキャップはどのような人にも発生します。身体的、精神的な不利もあれば、天候不順による自然災害を原因とするものもあります。地区補助金による支援金額は微々たるもので大きな支援はできないと考える人もあるでしょう。支援のプロジェクトは金額が多くなければならないということはありません。地区補助金に用いている金額で有効な支援を考えることが大切であり、このようなことが最も効果的なロータリー財団の活用といえるでしょう。』

ぜひともロータリー財団を身近なものとして捉え、今後ますますのご支援をお願いいたします。

・「ロータリーの友」1月号紹介 唐澤敏治ロータリー情報委員



◎ロータリーの友1月号の紹介を致します。

1月はロータリーの職業奉仕月間です。どんな職業であれ誠実に常に「四つのテスト」に従って働けば、誰もが世界に大きく貢献できる。ロータリーは職業奉仕および職業上の人間関係の中で私たちが実践する伝統的価値観により世界中で尊敬を集めている。ロータリーの成長を促す中で入会候補者への一番のセー

ルスポイントは職業奉仕であるとRI会長は言っている。また、私の職業奉仕の考え方としてP8～P16にかけて掲載されています。

◎1905年2月シカゴで4人の青年によって産声を上げたロータリーも本年100周年となり、新たな100年に向かって記念式典・祝賀会の案内があります。

◎「現場主義を貫き、世界で救いを待つ人のために生きた人」

昨年10月22日（92歳）逝去された緒方貞子さんとの思い出記事が紹介されています。

「会社員としてジャズプレイヤーとして～両立が自分らしさ」

人生が完了しても私は100歳まで演奏を続けたいと言っている小川理子さんの話も大変興味深い記事です。

皆さん、ロータリーの友1月号は最後まで真剣に読んで下さい。

■ 出席報告

会員数48名 出席免除会員5名 長欠会員2名 本日出席者27名 事前メイク4名
出席率75.61% 前回出席率 修正なし

■ 全員協議会

「次年度地区補助金事業について」

原一馬次期ロータリー財団委員長



12月15日（日）松本大学で開催された、国際ロータリー第2600地区補助金管理セミナー（次年度事業説明会）に、会長エレクトの藤澤さんと次期幹事予定者の多田さんの3人で出席してきました。

セミナーの冒頭、2013年にロータリーの方針がガラッと変わり、ロータリー財団がロータリーの活動の柱になったと話がありました。いままで寄付などの支援を中心に社会へ貢献してきましたが、実績が世間に伝わりにくいとのことで、ロータリーが事業主体となって実施してくとのことでした。

地区補助金は、3年前のクラブからの寄付金金額により決まります。補助金の管理については、補助金申請から事業・財務報告、補助金報告書までロータリー財団補助金マニュアル（全53P 選考基準含）に細かく規定されています。

過去の地区補助金事業は、大芝高原野鳥の看板設置、小中学校女子ソフトボール大会の支援バッテリーマシンの寄贈、養護学校へ教材及び道具を寄付、ソフトボール1流選手を招きソフトボール教室などがあり、今年度は、市民の森（ますみヶ丘平地林）整備事業です。次年度ロータリー財団委員会では今年度に引き続き、市民の森（ますみヶ丘平地林）整備事業を行いたいと思います。みなさんのご意見を伺いたいと思います。「市民の森」整備に協力する事で、市民にも後世に残さねばならない里山だと再認識していただくとともに、身近な自然を体験できる機会としたいと思います。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

1月28日（火） 点鐘 12:30 場所 海老屋料理店

- ・クラブフォーラム「職業・社会奉仕委員会」卓話
- ・例会終了後：クラブ協議会（下期はじめ）・理事会